

# 県 外 派 遣 報 告 書

(社) 栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	令和4年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会	開催地	香川県高松市 善通寺市 丸亀市
報告者名	大山賢史 若林謙作 岡龍哉	派遣期間	令和4年7月27日 ~ 8月1日
講師	有澤重行氏 塩谷禎氏 佐藤誠氏 平出剛氏 北沢あや子氏 伊藤亮介氏 阿部聖氏 小田中涼子氏		

7月21日(木)19:00~20:30

【審判会議】	
研修1	「インテグリティ」 (公財)日本バスケットボール協会 審判委員長代行 前田 喜庸氏
研修2	「香川 IH 成功に向けて」(公財)日本バスケットボール協会 インターハイ担当 有澤 重行氏
研修3	「より良い判定のためのポジション・アジャスト~地元香川での取り組みを踏まえて~」 (公財)日本バスケットボール協会 インターハイ担当 塩谷 禎氏

7月26日(火) 移動日

7月27日(水) 1回戦

審判員名	CC大山賢史 U1 板井巖(富山) U2徳丸昂(熊本)		
カード	男子1回戦 11:10 県立小林(宮崎)81-80明德義塾(高知)		
ゲームについて	会場	善通寺市民体育館	
<p>PGC(プレゲームカンファレンス)はコロナ対策のため大会3日前に資料をクルーと共有し、前日夜にオンラインで実施した。当日は作成したクリップ映像のみ確認を行い試合に臨んだ。小林高校の1対1~キックアウト、3Pショットが効果的に決まり、それが徹底されていた。3人のレフェリーそれぞれが積極的にポジションアジャスト、またピークアンドフラッシュから3or2を丁寧に確認することができた。明德義塾の留学生のペイントへのアタックやオフェンスリバウンドは素晴らしくチームをリードしていた。その際にも小林高校のディフェンスがボールスティールを狙いにかけていたが、見極めた上でファウルをコールする対応も必要であったかもしれない。またブロックショットに来る際にもゴールデンディング、インターフェアの事前の準備を行い、対応することができた。</p> <p>ゲームは終始クロスゲームで両チームの集中力が保たれ、大きなトラブルなく終えることができた。</p>			

審判員名	CC田村高光(秋田) U1 岡 龍哉 U2皆川太郎(福岡)		
カード	男子1回戦 12:50 県立福島南(福島)65-87駒澤大学附属苫小牧(北海道)		
ゲームについて	会場	善通寺市民体育館	
<p>PGCではゲームを進める上での基本の確認と、今回のインターハイ研修でもテーマとなった処置ミスゼロのための確認をした。駒大苫小牧の留学生がポイントとなりそうだったのでゴールデンディングやインターフェアも想定してゲームに入った。ゲームでは駒大苫小牧が留学生のインサイドを効果的に使いゲームを進めていった。留学生に対する守り方の判定、足元のトラベリングなどクルーで共有しながら判定していった。福島南のドリブルの突き出しのトラベリングについて逃してしまったものがあった。クロックが一度リセットされてしまうトラブルがあったが、時間を確認していたのですぐに修正できた。</p> <p>最終的には駒大苫小牧が逃げ切ったが福島南のプレスからスリーポイントが連続で決まり熱いゲームとなった。</p>			

審判員名	CC 大谷英紀(広島) U1 若林謙作 U2 高田開(香川)		
カード	男子1回戦 16:10 県立佐賀北(佐賀)58-60松江西(島根)		
ゲームについて	会場	高松市総合体育館	
<p>両チームとも機動力のあるチームでアップテンポな試合が展開された。PGCの際に「Cの重要性」について確認をしたが、実際のゲームでも何度もCからの判定が必要な場面があった。またRSBQをよく理解し、判定に生かすことの大切さも感じられたゲームだった。選手の意図するプレーができるかできないか、プレーの質は良いか悪いかなどを瞬時に判断し、ゲームにマッチした判定をすることが求められた。</p> <p>1Qは佐賀北が抜け出し、徐々に松江西が追い上げる展開で、最後まで勝敗が分からないゲームとなった。TOも含め、クルーワークがとても重要となったが、コミュニケーションを取りながら適切な対応ができた。</p>			

7月28日(土) 2回戦

審判員名	CC大山賢史 U1笠島喜与都(東京) U2岡山幸二(愛媛)		
カード	男子2回戦 15:00 市立船橋(千葉)64-93広島皆実(広島)		
ゲームについて	会場	普通寺市民体育館	
<p>ブロック大会の映像をもとにスカウティングを行い、両チームともに非常に展開が早いチームであった。プレカンでは速攻からの3or2、UFのC4などの確認をしっかりと行った。UFのクライテリアを質問形式でクルーで確認し、試合中に的確に答えられるよう準備をした。</p> <p>試合は、1対1からの攻撃が多く、お互いにファウルギリギリの良いディフェンスであった。プロテクトシューターの場面ではU1笠島からの確にコールがされ、その後も大きな怪我がなく、いいコントロールであった。前半はコツコツとプレーコーリングを積み上げたことでゲームは比較的スムーズに進んでいった。第3Q直後に広島皆実が連続して外角シュートを決め、逆転に成功、その後も積極的にペイントにアタックし続けゲームのリズムをつかんだ。最後は30点差近い差をつけ、広島皆実が勝利したが、両チームの全員で戦うバスケットは本当に素晴らしかった。</p>			

審判員名	CC高橋 伸禎(北海道) U1谷隆正(高知) U2 岡 龍哉		
カード	男子2回戦 11:40 福岡第一(福岡)72-52桐光学園(神奈川)		
ゲームについて	会場	高松市総合体育館	
<p>第1シードの福岡第一と1回戦を勝ち上がった桐光学園の対戦。PGCではチームのスタイルやプレーヤーの情報をできるだけ確認した。試合では福岡第一の試合の入りか思ったより上手く行かず、桐光学園の思い切りの良い攻めが効果的であった。しかし、福岡第一のガード陣のディフェンスのプレッシャー、留学生の高さで徐々に福岡第一が試合を優位に進めた。レフリーとしては明らかなものを1つ1つ判定し積み重ねるようにした。ゴール近くでの攻防での判定はポジションアジャストをもっと良い位置で行えがさらに良く見えた部分があるのではないかと反省した。特にファウルなのかブロックショットなのかは集中力とポジションが大切であると感じた。また、24秒オーバータイムギリギリでのショットやオーバータイムになる場面が多かったのでクロック、ショットクロックの管理は特に意識したゲームであった。普段から掲示物への意識をさらに高めていきたい。</p>			

審判員名	CC 田村高光(秋田) U1 若林謙作 U2 三谷修司(香川)		
カード	男子2回戦 11:40 美濃加茂(岐阜)74-69桜丘(愛知)		
ゲームについて	会場	高松市総合体育館	
<p>両チームともインサイドに留学生を擁し、見応えのある争いが展開された。3秒も含めたペイント内の整理やリバウンドへの対応が求められたが、クルーで協力し判定し続けることができた。途中留学生のインテンシティーが高まる場面もあったが、声かけや笛で抑えることができた。</p> <p>フリースローのヴァイオレーション後のゲームクロックやショットクロック成立後のゲームクロックなど、適切な時間に訂正する場面もあり、日頃からクロックの確認やマジックタイムの把握を意識していたことで対応することができた。今後はTOとの関わり方も工夫していきたいと感じた。</p>			

7月29日(金) 3回戦 終日スタンバイレフェリー

7月30日(金) 4回戦

審判員名	CC柳生志乃(兵庫) U1大山賢史 U2本間竜也(神奈川)		
カード	女子4回戦 13:40 広島皆実(広島)52-83大阪薫英女子(大阪)		
ゲームについて	会場	高松市香川総合体育館	
<p>広島皆実ハイポスト、ローポストを効果的に使いたかったが、広島皆実のビッグマンに対して大阪薫英はフィジカルなディフェンスで対応し、簡単に得点させなかった。大阪薫英のフィジカルな強さは実に素晴らしく、迫力がありゴール下のポストアップやスクリーンアウトの場面ではその強さがよく出ていた。プレー1つ1つにオフェンス、ディフェンスがイリーガルなコンタクトをしていないか、終始見極めが必要であった。しかし、決定打となるコンタクトもあまりなく、ゲームが不必要に止まることもなかった。リードローテーション中にCサイドでインパクトのあるケースがあったが、基本となるメカニクスからさらに1歩踏み込み、笛に表現できてよかった。</p> <p>広島皆実のインサイドをフィジカルに抑え込んだ大阪薫英女子が大きなリードを保ち勝利した。</p>			

7月31日（日）準決勝

審判員名	CC有澤重行(山口) U1田中豊弘(香川) U2大山賢史	
カード	男子準決勝 13:40 福岡第一(福岡)84-78藤枝明誠(静岡)	
ゲームについて	会場	高松市総合体育館
<p>非常にスピード感のある展開となり、レフェリーも体力、メンタル、スプリント力など様々な面でゲームレベルに耐えることのできる力が必要であった。もちろん3名ともトップリーグ担当レフェリーとして、万全の状態でのぞみ、大きなトラブルはなくゲームを進めることができた。藤枝明誠No.99の留学生の感情表現や迫力のあるプレーに会場は盛り上がっていた。1Q終了の頃のダンクショットへ行く場面でのファウルコンタクトや3Q始めのフェイクなど様々なプレーに対し、1つ1つ丁寧に対応した。</p> <p>福岡第一のボールを積極的に取りに行くディフェンス、オフェンスへの切り替えの速さは圧巻であった。藤枝明誠もガード、フォワード陣の素晴らしいシュート力、チームとして最後まで粘る姿はとて高松らしくハツラツとしており、見ているものに感動を与えるものであった。</p>		

8月1日（月）

審判員名	CC塩谷禎(愛知) U1有澤重行(山口) U2大山賢史	
カード	女子決勝 10:00 京都精華学園(京都)93-65大阪薫英女子(大阪)	
ゲームについて	会場	高松市総合体育館
<p>関西ブロックの決勝戦となった。京都精華No.4の留学生のエースセンターを中心に試合を進め、46得点、19リバウンド、10ブロックと攻守に渡って活躍した。我々も大阪薫英女子のセンタープレーヤーと京都精華の留学生をどのようにコントロールして行くかが課題となることをプレカンで共有していた。</p> <p>アウトオブバウンズ、イリーガルスクリーンなど難しい判定となるところが多々あったが、基本のメカニクスを実践し、判定を積み重ねた。2Q終了頃、京都精華No.4の縦に入ってくるドライブに対して、リードからオフェンスファウルをコールしたが、試合終了後の映像から振り返るとディフェンスファウルとすべきところであった。判定直後もチームや会場の雰囲気からミスコールであったかもしれないと感じた。オフェンスに先にフォーカスしてしまい、ディフェンスのポジションの確認が遅れてしまったことが原因と考える。その判定後はメンタルのリカバーを優先にし、基本に忠実に自分の行って来たこと、クレーを信じすぐにゲームに自分を戻した。今後もチームや選手のために、プレーの1つ1つに誠心誠意見極めを行い、笛に表現できるようにしたい。試合は後半京都精華が圧倒し、初優勝となった。</p> <p>最後に 地元香川県審判員、大会関係者のおかげで、大会期間6日間で5試合を担当することができました。コロナ感染拡大する中で体調も崩さず、怪我なく最後までコートに立つことができたことに感謝いたします。10月から開催するとちぎ国体では今回のインターハイで経験したコートの中での振る舞いやレフェリング、コート外での体調管理、行動規範など多くを仲間と共有し、自分自身また、栃木県のバスケットボールの発展のために努めていきたいと思ひます。大山</p>		